



## 毎日の会議だけではない、倉庫内での新たな活用 ～毎日の朝礼でi+hubが大活躍～

物流センターの新子安支店と横浜金沢支店に各1台、計2台のi+hubを導入された、SBS三愛ロジスティクス株式会社。導入の経緯や今後の展望について、横浜金沢支店に勤務する高松様、五味様にお話を伺いました。

**企業名** SBS三愛ロジスティクス株式会社  
**業種** 物流業  
**利用シーン** 倉庫内における、拠点をつなぐ社内会議、荷主様への説明



### 導入前の課題

- » web会議時、プロジェクターや外部機器の準備が手間
- » ホワイトボードと紙媒体の併用により、記録を写真撮影⇒資料化する手間が発生していた
- » 荷主様向けに説明を行う際、社員は自分のPCを荷主様は紙の資料で説明を行い、話が上手く伝わらないことも



### 導入後の変化

- » ワンタッチでweb会議を開始でき効率化
- » i+hubのホワイトボードで記録した内容をi+hub内に保存。資料化の手間を削減。
- » 社員と荷主様が同じ画面を見ることで意思疎通がしやすくなった

### 導入に至るまで

新子安支店をご利用いただいていた荷主様の在庫保管場所が手狭になり、保管場所拡大のため横浜金沢支店も使用することをきっかけに、両拠点を繋ぐ会議システムが必要になりました。

新子安支店の会議室ではプロジェクターや外部接続機器のカメラ・マイク・スピーカーを利用してWeb会議等をしていたため、部屋の電気を消すことによる資料の見づらさや機材準備が課題にありました。また、ホワイトボードと紙媒体も使用していたため、記載内容を写真に撮って資料に落とし込む作業も大変でした。以前からイグアス様の電子ホワイトボードを弊社倉庫で保管していることを認知していたため、「i+hubを使ってみてはどうか？」という話になり、リモート会議や昼礼などのコミュニケーション活性化を図るツールとしてi+hubの導入検討が始まりました。検討の段階では、新子安支店の会議室（約5m×8m）の広さでも音の聞こえ方や会議時の音質にブレが生じないかを懸念していました。

そこで、イグアスの協力のもと、i+hubを使用した疑似的な遠隔Web会議のデモを実施。実際の音声環境を体感したところ、クリアな音質と聞き取りやすさを実感できたことが、導入の後押しとなりました。イグアス本社でのデモ見学を経て、2025年1月に新子安支店と横浜金沢支店の2拠点へ86インチモデルを1台ずつ導入しました。新子安支店では会議室に、横浜金沢支店では倉庫内に設置し、それぞれの業務スタイルに合わせて活用しています。

## 導入の決め手

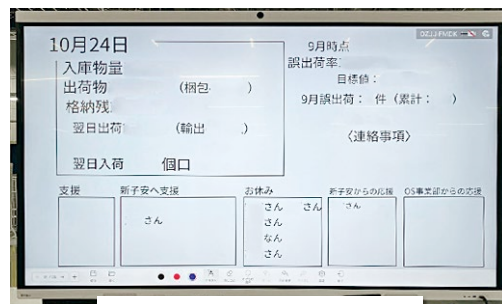
一番の決め手は、シンプルな操作性でした。操作が簡単であれば社員が使用する際もハードルが下がり、自然と利用機会も増えます。i+hubは電源を入れるだけで使える手軽さに加え、画面上での操作も直感的。導入後もすぐに社内で活用が進みました。特に印象的だったのは、タッチパネルによる直感的な操作です。マウスやキーボードを使うことなく、指先だけで画面を操作できるため、説明がなくても迷わず使える点が大きな魅力でした。

また、タッチ操作の反応が非常にスムーズでタイムラグがない点も特に優れていると感じています。

## 主な活用方法

週次で行う2拠点でのWeb会議以外にも活用の幅を広げ、横浜金沢支店では倉庫内での利用も進んでいます。例えば毎日行う朝礼では、電子ホワイトボード内に事前にテンプレートを作成して、業務内容や休暇情報を都度更新しながら共有しています。

その他にも、集合研修やお客様へのプレゼン用ディスプレイとしての活用や、荷主様とのコミュニケーションとしてアイスブレイク機能を使用したレクリエーション大会を行ったこともあります。



朝礼時工程表を映して情報共有

## 導入効果について



従業員向け集合教育の様子

Web会議はBYOMドングルを接続するだけのワンタッチ操作なので、Web会議の準備時間が削減できました。加えて、スピーカーやモニターへの接続が不要になり配線がなくなったので、会議室が綺麗になりました。

また、今までは荷主様へのオペレーション説明の際に、当社は自分のPCを見ながら、お客様は紙の資料を参照しながら説明を行っていましたが、i+hubで投影し1つの画面で説明できるようになったため、オペレーションの共有が容易になり、お客様の理解度が高まりました。86インチという大型ディスプレイなので、倉庫内での集合研修では複数回に分けて開催する必要がなくなり、1度で42名全員を集めて開催できるようになったのも非常に効率的です。

## 今後の展望

当初は新子安支店と横浜金沢支店の2拠点を繋ぐ会議用途のみを想定していましたが、実際の活用範囲は予想以上に広がりました。両拠点で同じ運用方法を採用するとより効果的な活用ができますので、各拠点の運用方法を統一していきたいと考えています。また他の拠点への導入も進め、どの拠点でも統一したオペレーションで業務を行えるということを様々な荷主様へアピールしていきたいです。



株式会社イグアス

パートナービジネス事業部  
テクノロジー製品本部  
オープン・ソリューション営業部

ihub@i-guazu.co.jp

<https://www.i-guazu.co.jp/lp/ihub>